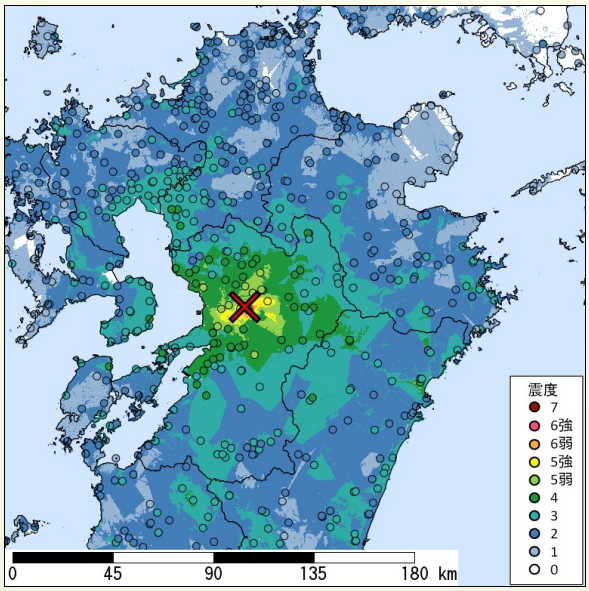
2016/04/14 22:18:18発表 （Ver.8 最終報 ）

M 5.7, 震源地:熊本県熊本地方, 深さ約10km, 2016/04/14 22:07頃発生 （気象庁発表）

震度の分布　最大観測震度6弱(*)



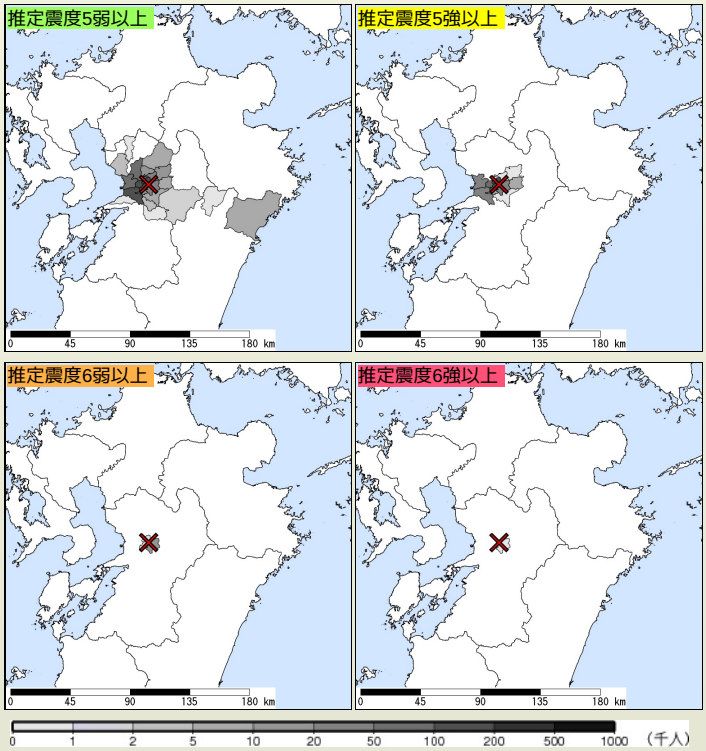
解析開始時点(2016/04/14 22:17:10)で収集されている防災科研K-NET, KiK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。（＊）気象庁発表の情報と一致しない場合がある。 一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。 他の図表も同様。

主要都市の推定震度　（都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載）

最大(*)観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5-5+6-6+7	市区町村名	全人口：夜間 (人)	震央距離 (km)
6弱		熊本県上益城郡益城町	32,000	1
5強		熊本県熊本市東区	190,000	3
5弱		熊本県熊本市中央区	180,000	8
5弱		熊本県熊本市西区	92,000	14
5弱		熊本県玉名市	69,000	26
5弱		熊本県合志市	56,000	9
5弱		熊本県熊本市南区	120,000	14
4		熊本県熊本市北区	140,000	15
4		宮崎県延岡市	130,000	84
4		熊本県八代市	130,000	37
3		福岡県久留米市	300,000	63
3		長崎県諫早市	140,000	69
3		宮崎県都城市	170,000	122
3		宮崎県宮崎市	400,000	115
3		佐賀県佐賀市	240,000	69
3		佐賀県唐津市	130,000	105
3		福岡県福岡市南区	250,000	91
3		長崎県佐世保市	260,000	109
3		福岡県福岡市博多区	210,000	95
3		長崎県長崎市	440,000	86

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口　（各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載）



補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

行政区名	震度5弱以上遭遇人口	震度5強以上遭遇人口	震度6弱以上遭遇人口	震度6強以上遭遇人口
全国	1,000,000	200,000	20,000	1,000未満
熊本県	1,000,000	200,000	20,000	1,000未満
熊本県熊本市中央区	200,000	50,000		
熊本県熊本市東区	200,000	100,000	1,000未満	
熊本県熊本市西区	50,000	20,000		
熊本県熊本市南区	100,000	50,000		
熊本県熊本市北区	50,000			
熊本県玉名市	2,000			
熊本県菊池市	5,000			
熊本県宇土市	1,000未満			
熊本県合志市	20,000			
熊本県下益城郡美里町	1,000未満			
熊本県玉名郡和水町	1,000未満			
熊本県菊池郡大津町	10,000	1,000未満		
熊本県菊池郡菊陽町	50,000	1,000未満		
熊本県阿蘇郡西原村	5,000	5,000		
熊本県上益城郡御船町	10,000	1,000未満		
熊本県上益城郡嘉島町	10,000	10,000		
熊本県上益城郡益城町	20,000	20,000	20,000	1,000未満
熊本県上益城郡甲佐町	5,000			
熊本県上益城郡山都町	2,000			
宮崎県	5,000			
宮崎県延岡市	5,000			
宮崎県西臼杵郡高千穂町	1,000未満			

全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1～999人の場合は1000未満と表示。 全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。

この地域で起こった過去の主な被害地震

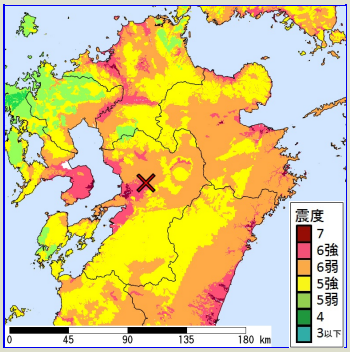
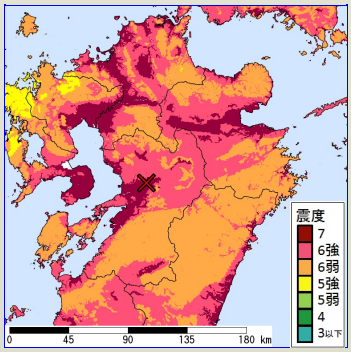
発生年	地震名	M	被害
1848	熊本	不明	熊本城内で石垣を損じ，座敷などの壁が落ちた．
1889	熊本県西部	6.3	熊本市を中心に半径約20kmの範囲に被害があり，県全体で全潰239，死20．橋の落下や破損が多かった．
1909	宮崎県西部	7.6	宮崎市付近で被害が大きく，宮崎・大分・鹿児島・高知・岡山・広島・熊本の各県に被害があった．家屋全潰4．大きなやや深発地震で，深さ約150km．従来，日向灘とされていたもの．
1922	橘湾 (島原(千々石湾)地震)	6.9	被害はおもに島原半島南部・天草・熊本市方面．長崎県で死26，住家全潰195，非住家全潰459．このうち2回目の地震による死3．
1939	日向灘	6.5	大分県沿岸で小被害，宮城県で死1．小津波があった．
1968	鹿児島県薩摩地方 (えびの地震)	6.1	2時間ほど前にM5.7の前震，翌日にもM5.6の余震があった．死3，傷42，住家全壊368，半壊636．山崩れが多かった．3月25日にもM5.7とM5.4の地震があり，住家全壊18，半壊147．
1975	熊本県阿蘇地方	6.1	阿蘇山外輪山内にある一の宮町三野地区に被害が集中した．熊本県で傷10，建物全壊16，半壊17，道路損壊12，山崩れ15．
1975	大分県西部	6.4	傷22，住家全壊58，半壊93，道路被害182など．
1997	鹿児島県薩摩地方	6.6	宮之城町・鶴田町・川内市などで傷36，住家全壊4，半壊31．最大震度5弱や4の余震が続いた．
1997	鹿児島県薩摩地方	6.4	3月26日の地震と並行する断層による．川内市で震度6弱．傷43，住家全壊4，半壊25．
2005	福岡県西方沖	7.0	福岡県沿岸海域の左横ずれ断層型地殻内地震．最大震度は九州本土の6弱だが，玄界島ではそれ以上の可能性がある．死1，傷1204，住家全壊144，半壊353．

出典：国立天文台編「理科年表Web版」, 丸善 （一部表現を割愛）

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。（2013年版地震ハザード評価(モデル1)）

50年間超過確率2%の計測震度分布



再現期間50000年相当の計測震度分布